

五、片岡政吉翁とアルプス電気

六月二十四日の払暁、時恰も梅雨前線が太平洋沿岸一帯を重ったるく垂れこめていた。ちょうどその頃、片岡政吉翁は、その八十年に及ぶ多彩な生涯を静かに閉じられた。

去る二月七日、私共は翁と同郷同年の津島先生を奪われ、今また翁が天の回収するところとなり、身辺にわかに寂莫哀愁の色が濃くなった感を禁じ得ないものがある。

片岡政吉翁は、香川県琴平町に生を享け、実り多き青壮年の時代を丸亀市で過された。若くしてつとに建設業、更には時代の尖端を行くバス事業に手を染められ、その盛大を致された。戦時中政府の方針に沿い、みずからの営業権を琴平参宮電鉄に譲渡されてからは、同社の顧問として地方産業の育成に尽瘁されたことは衆知の通りである。昭和二十三年、片岡電気の創業と共に東京に移られ、その事業を通して、国と郷土の為にみずからの一生を捧げられた。

翁は、すべての非凡な人がそうであるように、物事に対する徹底した究明心を持ち、その究明

を通して時流の動向を正しく把握し、これに対応する姿勢を謬らない方でした。そのため朝夕の新聞、テレビ等の報道や論説は、その些細なものに至るまで限なく目を通され、老いてなお怠るところがなかった。とりわけ内外の経済界の動きには不断の興味と関心をもたれ、その動向には極めて敏感であった。片岡電気やヒカリオイルの創始も、一にこの翁の決断によるものであり、片岡電気が同族の経営から大きく脱皮して、アルプス電気として今日の盛大を招いたことも翁の時流に対する洞察力に負うところのものであった。

翁はまた政治に対して関心と理解が深かった。翁の莫逆の友故三土忠造先生が、政界に進出され、鉄道、文部、大蔵、内務の各大臣を歴任された得意の時代においても、また先生がはしなくも帝人事件に連坐され、その冤罪に問われていた暗い長い失意の時代においても、翁は、先生にとつての眞の友人として、終始、先生を励し、慰めてこられた。私に対しても、惜しみなく支援を与えられたばかりか、時折訪ねてこられては、いつも優しい微笑を以て、政治家の哀歎とその守るべき厳しい格律を教示してくれたものである。

翁は、また情誼に篤く、人情にこまやかで、他者に対して寛大、みずからに対しては厳格であった。その日常の行蔵を見ても、極めて質実且つ謙虚であった。さればこそ多くの人に敬愛され敬慕された。かくて翁が隱微の間に積み重ねられた徳の厚さが、今日のアルプス電気とヒカリオ

イルの目に見えない守護神になっておられるといえよう。

私は、今、翁との永別に当たり、改めて翁の高德と勇断、研究心と洞察力に讃仰の念を禁じ得ないものがある。それは正に私共後進にとつての不滅の道標である。幸に翁は、みずからの創始にかかる諸事業にそれぞれ適した後継者を得られた。そして翁が身を以て示された道標は、今日これら後進の方々によつてかたく継承され、大きく伸張されておるのである。

翁よ。貴方は、なすべきことをなされた。貴方の一生は悔のない傑作ともいうべき一生であった。そして今、貴方は安心して静かな休息の時を与えられたのである。